

富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター



アクセシビリティ・コミュニケーション支援室
Hub for Accessibility and Communication Support



アクセシビリティ・コミュニケーション支援室には、
「トータルコミュニケーション支援部門」と「身体障害学生支援部門」の2つの部門があります。
それぞれの部門で、専任のスタッフが個々の学生の「困りごと」や「問題」に向き合い、
それらの解決・解消に向けて支援を行っています。

はじめに

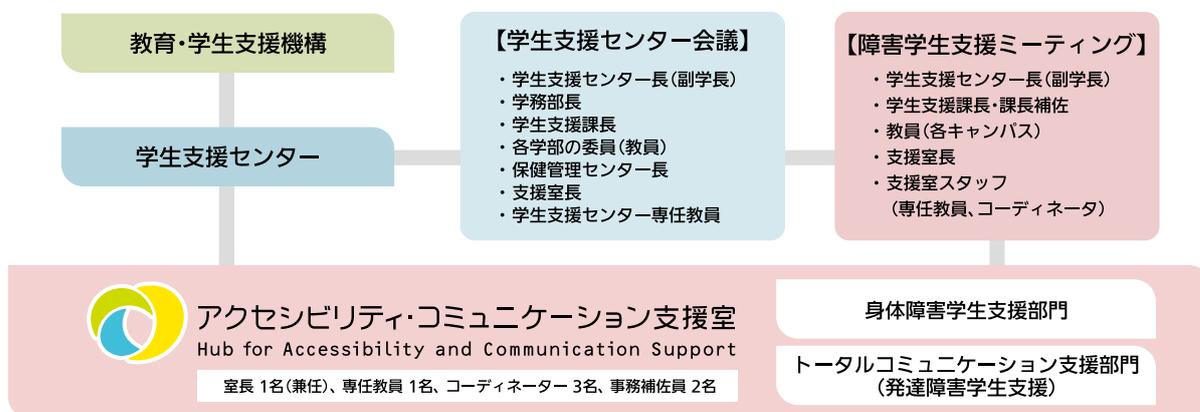
富山大学では平成19年度から発達障害のある学生への支援を開始しました。現在では、「富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室(以下、支援室)」として組織化し、身体障害および発達障害、精神障害のある学生の修学支援、就職活動支援を行っています。支援室では、学生自身の自己理解を促進し、学生の社会的自立を図ることを目的とした支援を行うとともに、教職員が障害に関する理解を深め、適切な配慮を行うためのメタ・サポートも行っています。

障害学生支援におけるミッションは、さまざまな障害があっても、彼ら・彼女らが他の学生と同様に大学や社会の財産として広く認知され、それぞれの学生が持っている豊かな才能が、社会全体の発展に寄与することができるよう、教育および支援を行うことです。そのためには、障害があることによる「生活のしにくさ」、「修学のしにくさ」を軽減することが必要で、彼らの持つ能力、個性が開花できる環境を整えていくことが大学に求められていると考えます。これらのミッションは、障害のある学生のために特別にあるものではなく、大学としての理念や目標と連動していると考えられます。本学の理念と目標には、「学生の個性を尊重する」とあり、発達障害のある学生の特性もその延長線上にある個々の学生の違いとして解釈することができます。また、「多様な学習ニーズに応え、教育の質を保証するために、教育環境の充実と教育システムの改善を図り、教員の教授能力のたゆまぬ向上に努める」との文言は、まさに多様性を尊重する障害学生支援に相通じるものであり、多様な学生に対する教育の質の保証は、支援室の中心的なテーマとつながるものです。

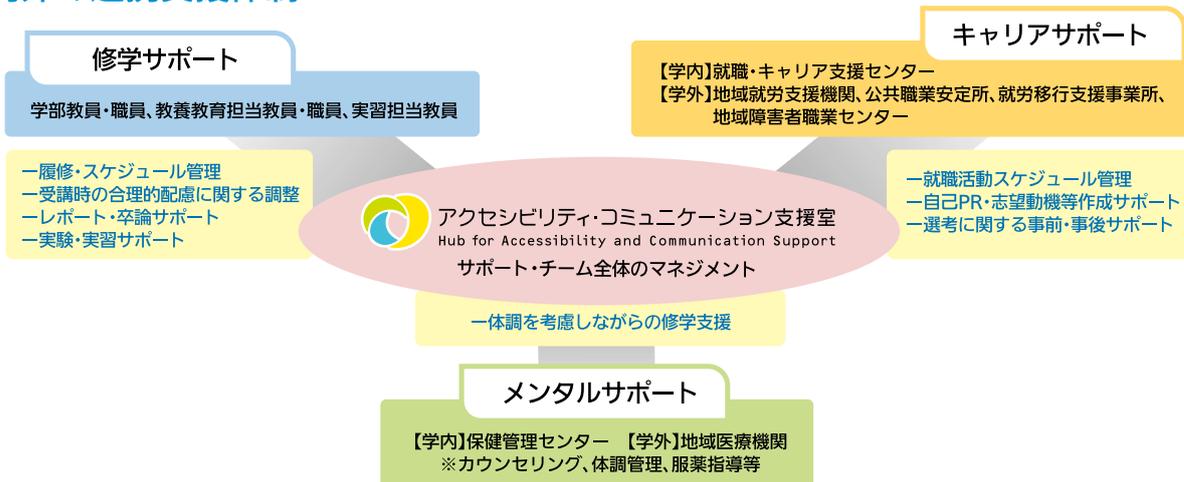
平成28年4月から施行された障害者差別解消法を受けて、障害学生支援は、様々な整備と対応の見直しを迫られており、改めて大学教育の「多様な学生に対する教育の質の保証」という理念に立ち返る必要があるのではないのでしょうか。

組織・運営の概要

富山大学における障害学生支援システムのコア組織



学内外の連携支援体制



■ 障害学生支援活動

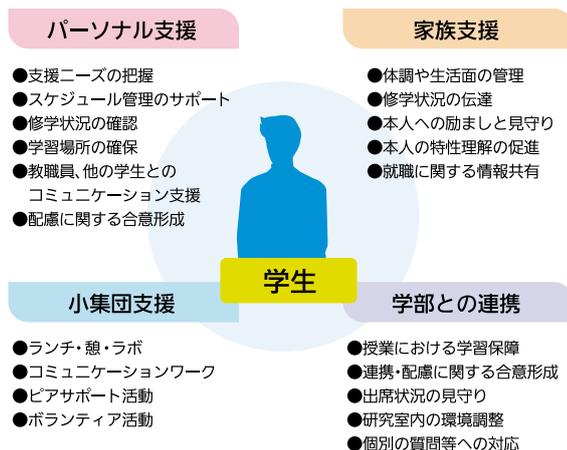
トータルコミュニケーション支援部門

発達障害のある学生(特性はあるが医学的診断のない者も含む)を支援対象として、社会的コミュニケーションの困難さからくる困りごとや修学上の困りごと等を学生本人との対話を通じて明らかにしていき、修学全般にわたる事柄に関して実行面のサポートを行ってまいります。※精神障害のある学生の支援も行っています。

■ 支援ポリシー

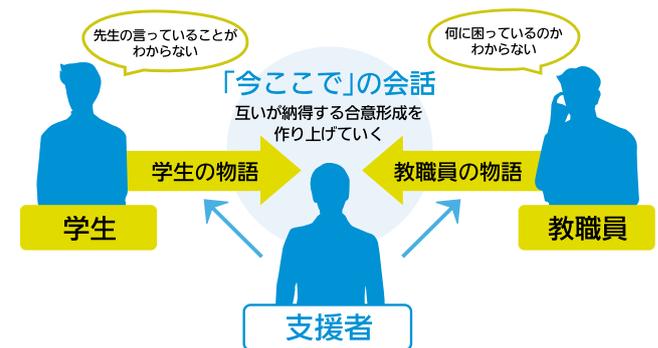
- ・ 学生が学ぶ意欲を損なうことなく修学できるよう適切な学びの場を構築する
- ・ 学生の意思表示を支援し、学生本人にとっての最善の利益につながる自己決定がなされるように合理的配慮を検討する
- ・ サポートチームを個別に形成し、学生本人の同意のもと、支援に必要な情報を共有することで、統一感のある支援を行う
- ・ 学生が抱える「問題」や「困難さ」を整理し、解決・解消のための道筋や実行に移すための方策を立て、その実行そのものを支援する

■ 支援内容



■ 支援者の役割

支援者は、学生と教職員がお互いの理解を深められるようメディエーターとしての役割を担っています。



学生と教職員、双方が納得し、適切な配慮とは何かを探求して行きます。

■ 小集団活動「ランチ・憩・ラボ」

支援室で個別面談を受けている学生を対象とし、「コミュニケーションが苦手だが、克服していきたい」、「同年代の仲間とのコミュニケーションの場がほしい」という願いを持っている学生に声をかけ、毎週1回(昼休み)に開催しています。同じような悩み・願いを持つ学生同士が、穏やかな雰囲気の中で集うことによって、「人と関わることへの不安」を解消できる機会となることを期待したプログラムです。



■ 支援ノウハウの蓄積・公開

1) 富山大学における発達障害学生支援～アクセシビリティ・コミュニケーション支援室の取り組み～

修学支援・就職支援・家族支援といった本学の発達障害学生支援の3つの柱を映像教材およびリーフレットとしてまとめました(ウェブサイトでも公開)。

2) 発達障害のある大学生に対する就職支援ガイド

発達障害のある学生への就職支援で浮かび上がった支援ニーズをQ&A方式にまとめ、就職支援全体の可視化を試みたガイドブックです(平成31年3月改訂)。

※平成25年度障害学生修学支援ネットワーク充実・強化事業(JASSO)の調査研究の一環として作成。



身体障害学生支援部門

身体に障害のある学生(肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、病弱・虚弱)を対象とし、障害のない学生と同様に修学できるよう、必要な環境整備および支援を行っています。車椅子ユーザー学生への移動介助や聴覚障害学生へのパソコンノートテイクなどの支援は、ピアサポート制度(学生同士の支援)を活用しています。

■ 構内のバリアフリー化(例)

自動ドア化



車椅子ユーザーの学生の入学を機に、主要な出入り口の自動ドア化を推進

障害者用駐車場(屋根付き)設置



車椅子ユーザーの学生等が、雨や雪に濡れることなく乗降車できるよう、屋根つきの駐車スペースを設置

階段に手摺を設置



雨天時や積雪時の転倒を防ぐために、新樹寮や学部棟の階段に手摺を設置

■ ピアサポート活動

支援室では、平成21年から障害のある学生を、学生同士の仲間として支え合う活動(ピアサポート活動)を行ってきました。ピアサポート活動では、障害のあるなしにかかわらず、本学の学生として共に話をしたり、食事をしたりして互いの交流を深めています。

1) 障害学生への支援(例)

情報保障(ノートテイク)



聴覚障害のある学生の情報保障として、各授業で(本人からの依頼の元)パソコンノートテイクを実施しています。

移動介助



車椅子ユーザーの学生、杖歩行の学生の移動介助を行っています。

積雪除去



車椅子ユーザーの学生等の降雪時の移動通路確保のため、車椅子専用駐車場やスロープを中心に除雪を行っています。

2) ピアランチミーティング

月に1回(4日間連続:火~金曜)のペースで平日昼休み時間にピアランチミーティングを開催しています。ピアランチミーティングでは、障害学生・学生ピアサポーター・支援室スタッフが昼食を摂りながら、日頃の支援活動の様子や今後の支援実施計画について話し合いを行っています。



3) ピアサポートセミナー

ピアサポートセミナーは、1~2か月に1回程度、さまざまな障害の知識や支援技術を学び、修得できる研修として開催しています。



パソコンノートテイクの実技研修

4) 他大学のピアサポーターとの交流

ピアサポート交流会・意見交換会として本学の学生たちが、先進的なピアサポート活動を実施している他大学へ訪問しています。交流会では、お互いの大学で行っているピアサポート活動の紹介や実際にパソコンノートテイクを用いて意見交換を行います。



支援者育成「アクセシビリティリーダー育成プログラム(ALP)」

本学では、「人にやさしい社会」をリードする人材「アクセシビリティリーダー(AL)」の育成プロジェクトを推進し、平成23年度からアクセシビリティリーダー育成協議会の会員となり、活動に参加しています。学生はこの活動を通して、アクセシビリティに関する知識や技術を学び、認定資格(1級・2級)を取得できます。また、1級を取得した学生は選抜でALキャンプに参加することができ、キャンプを通して、他大学の学生、さらには大学の枠を超えて、企業の方々とも交流することができます。



AL 育成協議会会員 (平成31年3月現在)

- 学** 富山大学・広島大学・関西学院大学・
広島文教女子大学・山口大学・九州大学・
岡山大学・大阪教育大学・広島国際大学・
大阪大学・徳島大学・神戸大学・鳥取大学・
茨城大学・琉球大学・長岡技術科学大学・
高松大学・長崎大学
- 産** 日本マイクロソフト株式会社
富士通株式会社
- 官** 日本学生支援機構

AL育成協議会とは・・・

ALPは、広島大学とマイクロソフト株式会社が平成16年10月に開始しました。
平成20年には文科省の教育GPIに採択されています。平成21年6月に産学官連携による「アクセシビリティリーダー育成協議会」が発足し、平成22年よりALPはオープン化され、協議会に参画する全国の大学で実施されています。

アクセシビリティ・マップ(バリアフリーマップ)

ALP活動の一環として、本学のアクセシビリティやバリアフリーの状況を発信するため、全キャンパス(五福・高岡・杉谷)の「アクセシビリティ・マップ」を作成しています。バリアフリー情報はもちろん、障害のあるなしにかかわらず本学を利用する多くの方に向けて、アクセシビリティの状況を伝えるものとなっています。また、作成に当たっては、障害のある学生の意見を取り入れるとともに、ALPの参加学生が中心となって構内の調査活動を行っています。

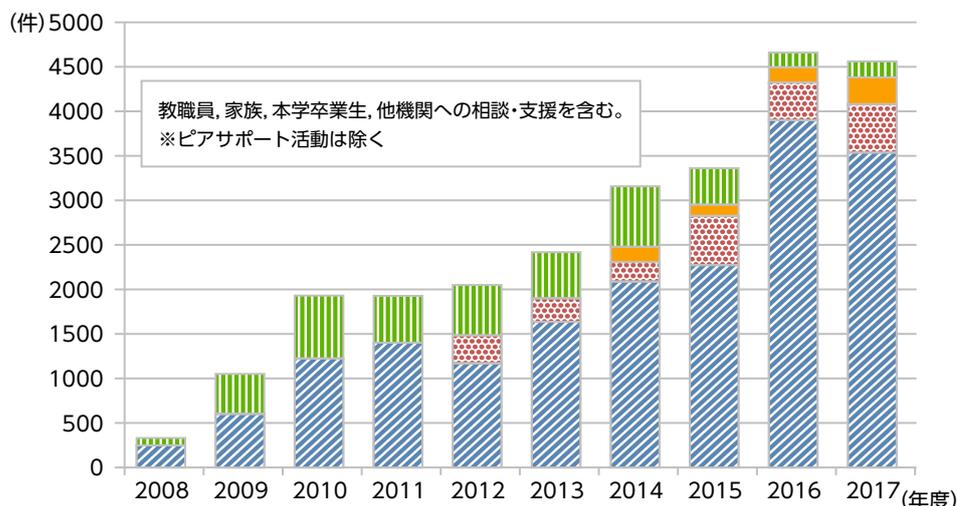


※本学公式ウェブサイトトップ > アクセス・マップ > アクセシビリティ・マップ
<https://www.u-toyama.ac.jp/access/accessibility/index.html>



支援室の相談・支援延べ件数(年度別)の推移

- 発達障害
- 身体障害
- 精神障害等
- その他(障害なし)



■ シームレスサポートの取り組み

高大接続

■ オープンキャンパスにおける「障害のある方の相談窓口」開設

8月に開催するオープンキャンパスで、障害のある方やその関係者から個別に相談を受け、本学の障害学生支援について説明しています。



■ チャレンジ・カレッジ ～発達障害のある生徒の大学体験プログラム～

平成24年度より、大学進学を目指す発達障害のある高校生のための大学体験プログラムを実施しています。本プログラムでは、学生ピアサポーターが中心となり、高校と大学の違いをスライドや映像を用いて説明するほか、学生食堂や売店、附属図書館等を利用してみるなど、学生との交流も深めながら大学生活を知ることができるようにしています。また、プログラム後半には「先輩の体験に学ぶ～発達障害のある先輩のエピソード～」として、支援室で支援を受けている発達障害のある学生が登壇し、自らの体験をもとに得意・不得意を認識してきた課程や、将来の自立に向けた展望を語っています。



学外連携

■ チャレンジ・ワーク～発達障害のある学生の職場実習体験プログラム～

「高機能発達障害学生に有効な就労体験のあり方」を探求するために、平成25年度より、高機能発達障害者に特化した就労移行支援を行っている(株)Kaienの職業訓練プログラムを学生が体験しています。5日間のスケジュールで、他の利用者と共に模擬職場で働くことを経験した後、支援者は学生及び職業訓練スタッフにインタビューを実施しています。平成27年度には地域就労移行支援事業所での職業訓練体験も行っており、大学と就労支援機関との連携を図っています。



■ 障害学生支援カンファレンス北陸

北陸地区の高等教育機関や専門支援機関の連携を促進し、北陸地区全体として障害学生の社会参入を支えるセーフティネットを形成することを目的とし、平成25年度より障害学生支援カンファレンス北陸を開催しています。

【参加機関】 NPO法人リエゾン、スクラム福井、富山障害者職業センター、福井県立大学、福井大学、福井工業大学、金沢大学、新潟大学、新潟工科大学、長岡造形大学、長岡技術科学大学、富山福祉短期大学、富山短期大学、富山大学

【テーマ】 ※過去3か年のみ(平成25年より毎年開催)
平成30年度「障害学生に対する「学ぶ」×「働く」の支援について
～大学と就労支援機関との連携～」
平成29年度「障害学生における大学から就労への移行支援について」
平成28年度「障害者差別解消法施行後の障害学生支援について」



■ 独立行政法人日本学生支援機構 障害学生修学支援ネットワーク拠点校事業

■ 訪問・視察対応 ※過去3か年のみ

●平成27年度(17機関)

電気通信大学, 信州大学, 滋賀県立大学, 清泉女学院大学, 厚木清南高校, 立命館アジア太平洋大学, 京都造形芸術大学, 東北学院大学, 浜松医科大学, 常葉大学, 名古屋大学, 香川大学, 熊本保健科学大学, 大分県教育庁, 産業医科大学, 愛知高校, 関西学院大学

●平成28年度(9機関)

東京都世田谷区役所, 北陸大学, 岐阜県発達障害支援センター, 山梨大学, 石川県立看護大学, 山口大学, 東北学院大学, 福岡大学, 日本学生支援機構

●平成29年度(13機関、2事業所)

一橋大学, 帝京科学大学, 北星学園大学, 長岡造形大学, 美作大学, 東洋大学, 大阪大谷大学, 筑波技術大学, 茨城大学, 名古屋大学, 松山大学, 栃木県教育委員会, 京都府立清明高校, 就労移行支援事業所(2ヶ所)

■ 全国障害学生支援セミナー(専門テーマ別セミナー) ※過去3か年のみ(平成25年より毎年開催)

平成30年度 専門テーマ別セミナー【発達障害就労支援】

テーマ: 発達障害学生の就労を実現するための支援の在り方～意思表示支援とセルフアドボカシーを中心に～

日時: 平成30年12月5日(水) 参加人数: 199名

平成29年度 専門テーマ別セミナー【3】

テーマ: 発達障害学生に必要なキャリア支援とは～自己認識を育成する環境をどのように形成するか～

日時: 平成29年11月27日(月) 参加人数: 197名

平成28年度 専門テーマ別セミナー【1】

テーマ: 発達障害学生支援における学内支援体制の構築～支援チームの形成と連携の在り方～

日時: 平成28年9月26日(月) 参加人数: 191名

■ 文部科学省 障害のある学生の修学支援に関する検討会委員受任(平成24・28年度)

■ 取組実績

平成25年度 独立行政法人日本学生支援機構 障害学生修学支援ネットワーク充実・強化事業の調査研究

—高機能発達障害大学生に対する就労支援の在り方に関する実証的研究—

平成21年度 独立行政法人日本学生支援機構 障害学生の教育支援に関する調査研究委託事業

—視覚・聴覚・発達障害学生のピア・サポーターが求められる実践能力の比較研究—

平成20年度 独立行政法人日本学生支援機構 障害学生受入促進研究委託事業

障害のある生徒の進学・支援のための高大連携の在り方に関する調査研究

—高機能発達障害学生が望む高大連携の在り方と大学の受け入れ体制に関する実証的研究—

平成19年度 文部科学省 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)

「オフ」と「オン」の調和による学生支援—高機能発達障害傾向を持つ学生への支援システムを中核として—

■ 発行物

【書籍】 発達障害大学生支援への挑戦
—ナラティブ・アプローチとナレッジ・マネジメント(金剛出版, 2010)

発達障害のある高校生への大学進学ガイド
—ナラティブ・アプローチによる実践と研究(遠見書房, 2012)

【映像出版】 発達障害支援の学生支援
—富山大学の取り組みに学ぶ(DVD)(中島映像教材出版, 2011)

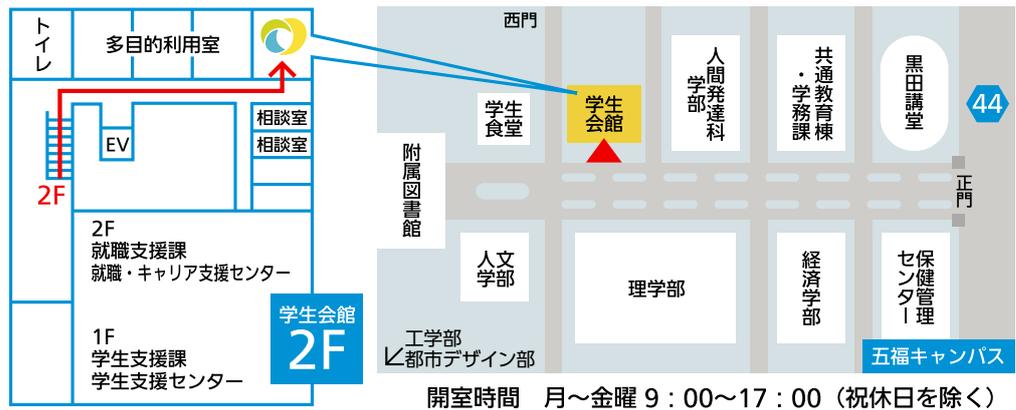
【映像教材】 富山大学における発達障害学生支援
～学生支援センターアクセシビリティ・コミュニケーション支援室の取り組み～
リンクURL <http://www3.u-toyama.ac.jp/support/communication/video/index.html>



■ アクセス(富山大学五福キャンパス内)



学生会館



■ スタッフ紹介

(平成31年3月現在)

室長・相談員	西村 優紀美
特命教員・相談員	桶谷 文哲
相談員・コーディネーター	日下部 貴史
相談員・コーディネーター	曾我 有可 他1名
事務スタッフ	2名



■ 連絡先

富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター



アクセシビリティ・コミュニケーション支援室
Hub for Accessibility and Communication Support

〒930-8555富山市五福3190 TEL:076-445-6910 E-mail:hacs@ctg.u-toyama.ac.jp

【支援室HPはこちらから】

本学公式ウェブサイトトップ > キャンパスライフ > 学生支援 > 支援室
<http://www3.u-toyama.ac.jp/support/communication/index.html>



以下のキャンパスでも相談を受け付けています。

高岡キャンパス
毎週火曜 9:00～17:00

杉谷キャンパス
毎週木曜 9:00～17:00

富山大学は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領を制定しました。
本学公式ウェブサイトトップ > 大学紹介 > 情報公開 に掲載しています。
<http://www.u-toyama.ac.jp/outline/public/normalization/index.html>



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。